

小西史子* ○坂元明子**

(*佐賀大、**福岡女学院短大)

【目的】流通の発達、食品産業の発展により、古来受け継がれてきた地域やその家独特の食文化が薄れ、食事内容はもとより個食、中食、孤食等食形態も大きく変化し、それに伴い家族関係の希薄化が問題となっている。食卓の風景には、家族の食に対する意識が影響していると考えられ、特に母親の意識の関与が多きいと考えられる。そこで祖母と母親の料理関心度と食事内容を含めた食事に対する意識や考え方との関連を明らかにして好ましい食卓風景の創出のための資料としたいと考え調査を行った。

【方法】調査対象者は福岡市の女子短大生の母親 303 名で、連続3日間の夕食食卓写真と食事内容調査、食生活意識と考え方についてのアンケート調査を行った。調査時期は1998年5月と10月で回収率は97%であった。分析には統計解析ソフト SPSS を用いた。

【結果】調査項目として食教育、共食、食卓構成、食文化伝承、朝食、夕食、食品衛生などに対する意識や状況、また食事実態として外食実態、間食実態、食品摂取状況等を取り上げた。母親の年齢別、職業別、生育地別、生活環境別（転居経験、海外旅行経験、苦手食品の有無）食生活意識には差が見られなかった。しかし祖母と母親間の料理関心度には正の相関が見られ、祖母の料理関心度は母親の共食や食卓構成に対する意識と、母親の料理関心度は共食、食卓構成、食文化伝承、夕食に対する意識と相関が見られた。食事実態では祖母の料理関心度とは相関が見られず、母親の料理関心度と食品摂取状況、外食状況に相関が見られた。食文化伝承に対する考え方では、行事食を 74.4 %の母親が子供と一緒に料理して伝えたいとしていた。